

◇今年度とりくんでみた家族の声

～家族の記入でケアが変わり始める、家族自身が変わる、提案が生まれる～

- 施設の方にどの程度までお願いしていいかわからなかったが、シートを通じて伝えたら気持ちよく配慮してもらえてプラスになった。
- 小さなことでもできる能力があることをそれぞれの関係者に知っていただき、小さい事を見つけながら自分でできることをやらせてほしい。
- 現場で汗水たらしている人に、今後、母が施設で快適に暮らせるようにしてほしいと伝えたい。
- シートの記入をきっかけに担当者会議を開いてもらうことができた。
- 具体的なことを伝えることができケアマネさんとのかかわりも強くなった。
- いろいろな場面で本人がいったことをまとめることで、こんな場面も、あんな場面もあることに気付ける。
- 自分が思っていた母の思いと違うことを聞いて、改めて母のことを見直す機会となった。
- 昔を振り返ることがなかったので、これを機会に振り返り、少し母にやさしくなれた。
- 書くことではなく、いかに活用するか、専門職でもケアマネさんの力量が大事なので頑張ってもらいたい。
- 書けないけどいいたいことはいっぱいある、そういう人は家族同士で書ける人が話しを聞いて書きながらシートをうめていくこともできるのではないかな。

◇今年度とりくんだ家族を支えてきたケアマネージャーさんの声

～家族からの発信でケアがレベルアップ、本人と家族を支えるチームが育つ～

- 利用者さんの背景を知っているつもりだったが、シートで書けるところが少なく、娘さんが書いたシートをいただき、何もわかっていなかったことに気づいた。
- ショートステイ利用時には情報提供書を渡すが、現場では利用者さんにどう関わっていいのかわからず失敗をしながら対応をしている現状なので、このシートがあれば失敗なく見ていけるのではないかなと思う。
- 認知症に関わらず、ケアマネは月1回しか会えないことが多いので、家族やデイサービスやヘルパーさんのほうが日々のことを良く知っているのだから、シートを通して日々の情報がダイレクトにケアマネに入ってくる状況をつくっていききたい。

◇今後に向けて

- 「家族からもっと発信する、上手く伝える方法」をより広める。
- そのための共通道具(センター方式シート)の
 - ・使い方・活かし方を広める。
 - ・上手く使っていくための支援策を広げる。
(講座、ガイド、サポーター)
- 認知症の本人自身がシートを使って、自らの思いや力を伝える実践を広げていく。

- ♥ 本人・家族の声や力を活かして、互いのケアをよりよく、より楽に
- ♥ 認知症になっても、本人と家族が自分らしく暮らしてつづけていくために

4) 報告4『『認知症でもだいじょうぶ』町づくりキャンペーン2005』

認知症介護研究・研修大府センター長 柴山 漢人

柴山でございます。「『認知症になってもだいじょうぶ』町づくりキャンペーン 2005」につきましては、本日の第2部で詳しく発表されますので、わたくしからは簡単に経過を中心にして申し上げたいと思います。

このキャンペーンは、昨年度から始まり、「『痴呆の人とともに暮らす町づくり』地域活動推進キャンペーン」といっておりました。主旨はまったく変わっていないのですが、「認知症」への呼称変更に伴って名称を変えたということでもあります。

昨年度は2004年の秋に京都で行われた「国際アルツハイマー病協会第20回国際会議」で表彰式・発表会を行い本日より同じように大変多くの方が全国から参加されました。

このキャンペーンは、認知症の方を地域で支える先進的な活動を全国から募集し、選考の上でその活動を表彰して発表していただくというものです。これを進めていくことによって、認知症の人の本来の力を活かしながら暮らす町づくりの実践を全国に広げていきたいと考えています。

本年は「認知症を知る1年」の中に位置づけられ、「100人会議」の皆様にもさまざまな形でご協力いただいております。

本年度のキャンペーンは昨年4月から募集を開始し、10月末に締め切りました。昨年は応募エントリーの総数が60件ございまして、本年は77件のご応募をいただきました。この会場には応募していただいた方がたくさんいらっしゃると思います。改めてお礼を申し上げます。

さて、応募を締め切らせていただいてから、選考基準に基づき11月17日に第1次の選考、12月1日に最終選考を行いました。その結果、本日、後ほど第2部で受賞者のかたに登壇していただくわけですが、4つの地域活動に対して奨励賞、3つの地域活動に対して特別賞を用意いたしました。

入賞された方、それから残念ながら選外となった方も非常に熱心に活動を展開しておられて、わたくし自身、選考にあたりながら多くのことを学ばせていただいた次第です。いずれも、「地域で認知症の方を支える」活動を継続していく上でたいへんに参考となり、モデルケースとして貴重な活動でございますので、これから報告書やホームページなどで活動内容をご紹介してまいりたいと思っております。

それでは皆さん、ぜひ第2部の発表をお聞きください。

以上で簡単ではございますが、「『認知症になってもだいじょうぶ』町づくりキャンペーン 2005」の報告とさせていただきます。ありがとうございました。

5) (資料) 啓発活動の拡大および広報活動

■新規入会会員

82団体・個人(平成17年7月8日:第1回100人会議)

→96団体・個人(平成18年2月1日現在)へ

■世界アルツハイマーデー(9月21日)記念イベントの開催(呆け老人をかかえる家族の会主催)

1) 記念講演会

全国各地で開催され、出席者(9,166人)は全員、認知症サポーターとして認定されました。

2) 街頭一斉活動

9月21日の世界アルツハイマーデー前後に、家族の会では全国一斉に街頭での認知症啓発活動を実施しました。滋賀県では国松県知事が、福岡県では認知症本人の越智さんがご夫婦で参加された他、100人会議も東京や富山で参加し、キャンペーンの啓発リーフレットを配布しました。

■広報活動—マスコミ掲載記事、番組

◇新聞・雑誌掲載

平成17年

- 4月 15日 日本経済新聞 ～100人会議設立発起人会について
- 6月 19日 朝日新聞 ～呆け老人をかかえる家族の会—認知症本人の声 聞こう生かそう
- 7月 8日 (前後日程にて)各専門誌にて ～第1回100人会議開催について
- 8月 25日 読売新聞 ～理解深めて支え合おう—認知症
- 9月 月刊介護保険 2005年9月号 ～介護保険担当者会議—キャラバン・メイト養成について
- 9月 23日 毎日新聞 ～100人会議、認知症を知る1年、認知症サポーターについて
- 10月 3日 朝日新聞 ～オレンジリング(認知症サポーター)について
- 10月 6日 女性セブン10月20日号 ～チャリティーバンド—オレンジ:認知症サポーター
- 12月 9日 (前後日程にて)各専門誌にて ～町づくりキャンペーン表彰団体決定 等

◇テレビ・ラジオ放映など

平成17年

- 7月 9日 NHK:おはよう日本(ニュース報道)
- 9月 24日 NHK:ETVワイド・ともに生きる(生放送/スタジオトークライブショー)
- 10月 11日 J-Wave:JAM THE WORLD ～カラーバンド特集
- 12月 9日 ニッポン放送:武田鉄矢・今朝の三枚おろしネットほか:政府広報CM
(～平成18年2月28日随時)

平成18年

- 1月 14日(～1月27日) 映画館(全国10館)にて政府広報CM 等。
※掲載一覧は、ホームページ <http://www.ninchisho100.net> にてご覧いただけます。

Ⅱ. 第2部 「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン2005 表彰式・地域活動報告会

1. 挨拶

「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン2005選考委員長 堀田 力

選考委員長として総括的な報告をさせていただきます。

本当に素晴らしい発表がこれから行われます。どれ1つとして同じものはありません。各地域で活動されている方々の熱い思いと知恵があふれております。町づくりキャンペーンは地域で認知症の方を支えていくというキャンペーンでありますけれども、そのやりかたは決まっているわけではありません。それぞれの地域で知恵を集めてやっていくしかないのです。みなさんが知恵をしぼられて活動されているこのような知恵がたくさん集まっていくことによって、いろんな選択肢ができて活動が広がっていくのだと思います。活動の内容は地域それぞれでバリエーションを作っていくっていただきたいと思います。

選考はたいへんでしたが、選考委員の先生方は深い議論を重ねてくださいました。

賞に選ばれなかった活動の中にも、素晴らしい活動がたくさんありました。できれば全部の活動を紹介したい、そういう思いをもっております。1つだけ申し上げますと、昨年の町づくりキャンペーンで三重県桑名市のウエルネスグループの多胡さんは今年も応募してくださいまして、認知症の人たちでグループを作って地域の防犯活動をしているという、認知症の人の能力を生かす素晴らしい活動を紹介してくださいました。このようにすばらしい応募活動はたくさんありました。

今日は、奨励賞を受賞された活動の成果を報告していただいて、みんなでその内容を吸収したいと思います。



厚生労働副大臣 赤松正雄

厚生労働副大臣の赤松雅夫と申します。

認知症は誰でも起こりうる病気でありまして、これから20年間に倍増すると見込まれております。けれども、認知症になっても周囲の理解と地域の支えがあれば、認知症になっても自分らしい生活をおくることは十分可能です。このことから、厚生労働省では本年を「認知症を知る1年」という位置づけにいたしまして、国民の皆さまに認知症についての正しい知識と理解を持っていただくとともに、認知症の方が尊厳をもって暮らしつづけることを支える地域作りをすすめております。

「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーンは、このような取り組みの柱の1つでありまして、本日受賞された皆様方は認知症でもだいじょうぶな町づくりに先駆的に取り組んでおられる皆さまです。

皆様方の日頃のご努力に対しまして心から感謝申し上げますとともに、先駆的な取り組みが全国に発信されて広がっていくことを強く期待しております。厚生労働省としましては引き続き認知症対策を総合的にしっかりと進めてまいります。

皆様方のご協力をお願いいたしまして、私からのご挨拶といたします。



2. 「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン2005の概要

◆目的

認知症の人を地域で支える先進的活動の事例を広く全国から募集して選考の上、顕彰・発表します。それによって、認知症の人の本来の力を活かしてともに暮らす新しい町づくりの活動を全国ではぐくむことを目的とします。

◆主催等

- ・主催 : 認知症介護研究・研修東京センター
認知症介護研究・研修大府センター
認知症介護研究・研修仙台センター
- ・共催 : 住友生命保険相互会社
社団法人 呆け老人をかかえる家族の会

◆実行委員会

- 委員長 長谷川和夫（認知症介護研究・研修東京センター長）
- 委員 加藤 伸司（認知症介護研究・研修仙台センター研究・研修部長）
古河 久人（住友生命保険相互会社調査広報部長）
小長谷陽子（認知症介護研究・研修大府センター研究部長）
杉山 孝博（社団法人呆け老人をかかえる家族の会副代表理事）
永田久美子（認知症介護研究・研修東京センター主任研究主幹）

◆選考経過

◇選考基準

①新しい認知症ケアと町づくりの実践状況

認知症の人と共に暮らす町を作るための活動が展開されている。関係者が協働して取り組んでいて、今後将来的に発展が期待される。

②本人が町でいきいきと暮らす姿の実現

認知症の人が地域でいきいきと暮らしている姿の実現が示されている。

③理解を広げる取り組み

認知症の人と支援について理解を町に広げるユニークな取り組みがなされている。

④他の地域でも展開できる可能性

他の地域でも展開可能な内容や方法である。

◇第1次選考

11月17日の第1次選考は、認知症介護研究東京センター永田久美子主任研究主幹、同大府センター小長谷陽子研究部長、同仙台センター加藤伸司研究・研修部長が担当しました。選考基準にもとづいて各奨励賞ごとに3点、計12点の地域活動が第1次選考を通過しました。

◇最終選考

12月1日の選考委員会では、以下の4つの各奨励賞検討チームで最終選考が行われました。（堀田力選考委員長、末次彬副委員長は全体を総括）

- ① 厚生労働大臣奨励賞〈町ぐるみ、地域活動、ネットワーク部門〉
(北良治(部門主査)、梨元勝、長谷川和夫)
- ② 認知症介護研究・研修センター奨励賞
(本人の力の発揮、多様な個別生活支援、セラピー部門)
(小宮英美(部門主査)、板山賢治、本間昭、横山進一)
- ③ 呆け老人をかかえる家族の会奨励賞〈介護家族支援、家族の力の発揮部門〉
(長嶋紀一(部門主査)、高見国生、森岡茂夫)
- ④ 住友生命保険相互会社奨励賞〈権利擁護、新しい住まい方、世代間交流、共生部門〉
(中島紀恵子(部門主査)、柴山漠人、高村浩、中山二基子)

その後、選考委員会全体会の場でそれぞれの奨励賞部門の選考結果および選考理由が、各部門主査から説明され、討議が行われた後、選考委員長の司会のもとで全員での確認が行われました。特別賞の選考では、選考委員からの推薦候補が出され、同じく全体討議の上、確認されました。

◇選考委員一覧

委員長	堀田 力	(財)さわやか福祉財団理事長・弁護士
副委員長	末次 彬	(社福)全国社会福祉協議会副会長
委員	板山 賢治	(社福)浴風会理事長
	北 良治	北海道 奈井江町長
	小宮 英美	日本放送協会解説委員
	柴山 漠人	認知症介護研究・研修大府センター長
	高見 国生	(社)呆け老人をかかえる家族の会代表理事
	高村 浩	弁護士
	長嶋 紀一	認知症介護研究・研修仙台センター長
	中島紀恵子	新潟県立看護大学学長
	中山二基子	弁護士
	梨元 勝	芸能レポーター・函館大学教授
	長谷川和夫	認知症介護研究・研修東京センター長
	本間 昭	東京都老人総合研究所精神医学部長
	森岡 茂夫	国際長寿センター理事長
	横山 進一	住友生命保険相互会社取締役社長 (敬称略・50音順)

3. 全国から寄せられた地域活動一覧(受付順)

応募者名称	
1	グループホーム レインボー2
2	小規模多機能福祉施設 イーケア三田
3	協栄興産株式会社 ふれあいの家 長住
4	有限会社 託老所あんき
5	グループホームささゆり
6	医療法人藤本クリニックデイサービスセンター
7	砺波地域リハビリテーション支援センター 南砺市民病院
8	介護者の集い「オアシス」
9	社会福祉法人ふるさと自然村
10	札幌札幌ケアシステム
11	フィーリングアーツボランティア委員会
12	特定非営利活動法人 在宅生活支援サービスホーム 花風
13	・待賢住民福祉連合協議会 ・小川在宅介護支援センター ・京都市上京区社会福祉協議会 ・上京福祉事務所
14	北海道本別町
15	社会福祉法人 恵仁会 特別養護老人ホーム 鹿屋長寿園
16	近江八幡市健康福祉部健康福祉課
17	小規模多機能施設 井原ラーゴム
18	全国マイケアプラン・ネットワーク
19	(株)スルガケアサービス AMBIK おやま
20	認知症高齢者を支える家族の会「きさらぎ会」
21	医療法人エスポアール出雲クリニック 重度認知症老人デイケア 小山のおうち
22	株式会社メッセージ 介護付有料老人ホーム「アミーユ」
23	社会福祉法人 自立共生会
24	特定非営利活動法人 ときわ会 藍ちゃんの家 第二藍ちゃんの家
25	沼田市・沼田市社会福祉協議会・在宅介護支援センター協議会
26	東京都北区戦略的介護予防推進チーム(認知症グループ)
27	(財)シニアルネサンス財団
28	阿倍野介護家族の会・えがおの会
29	グループホーム六甲・わーらいふ 灘
30	宮城県田尻町(スキップセンター)
31	在宅介護支援センター うらら
32	社会福祉法人 櫻灯会 特別養護老人ホーム日の出紫苑
33	神鋼ケアライフ 岡本ステーション
34	デイケアハウスにぎやか
35	東京都町田市グループホーム連絡会
36	石川県立看護大学附属地域ケア総合センター研究事業認知症予防グループ
37	横須賀市 健康福祉部 長寿社会課
38	社会福祉法人 白石陽光園
39	特定非営利活動法人 楽
40	池田 ちか子
41	平林クリニック
42	WACあいネットワーク NPO法人福祉振興会
43	山手医院
44	社会福祉法人浴風会 グループホームひまわり
45	社会福祉法人浴風会 南陽園
46	全国石油商業組合連合会
47	特別養護老人ホーム返里苑
48	中林 重祐
49	田村 雄次
50	広島県老人呆けの人を支える家族の会
51	特定非営利活動法人純正律音楽研究会
52	阿部 政男
53	社会福祉法人マクリアニセン 特別養護老人ホームシエステさとの花
54	NPO 法人パオッコ
55	社会福祉法人 東京有隣会 第2有隣ホーム
56	岩手県盛岡市医師会
57	(有)ケアサポートあい デイホーム「ちゃのま」
58	(社福)ふるさと会 中追の里
59	認知症本人・小菅マサ子&介護家族・小菅もと子&地域の人たち
60	社会福祉法人 悠和会 認知症高齢者グループホーム「銀河の里」
61	よこはま回想法ライフレビュー研究会
62	有限会社 有明の里
63	鳥取県琴浦町役場
64	医療法人社団 聖仁会
65	スリーA予防デイサービス 折り梅
66	行田市役所 高齢者福祉課
67	特定非営利活動法人 アビリティクラブたすけあい
68	池田町在宅介護支援センター
69	東京都町田市グループホーム連絡会
70	社会福祉法人 正吉福祉会 府中市立 よつや苑
71	NPO 法人ワーカーズコープ
72	ボランティア劇団「気仙ボケー座」
73	長崎市在宅介護支援センターにしきの里
74	NPO 法人 校舎のない学校
75	写真で見る昭和30年代の地域を研究する会
76	国立音楽院
77	東映(株)映画宣伝部

4. 奨励賞、特別賞表彰式

①厚生労働大臣奨励賞

表彰:赤松正雄(厚生労働副大臣)

受賞:『『小山のおうち』の実践 10年と『交流塾』の展開』

医療法人エスポアール

出雲クリニック重度認知症老人デイケア

小山のおうち

(島根県出雲市)

施設長 高橋幸男



②認知症介護研究・研修センター奨励賞

表彰:長谷川和夫(認知症介護研究・研修東京センター長)

受賞:「若年・軽度認知症専用自立型デイサービス

『もの忘れカフェ』からみえてきたもの」

医療法人藤本クリニック

デイサービスセンター(滋賀県守山市)

デイサービスセンター所長 奥村典子



③呆け老人をかかえる家族の会奨励賞

表彰:高見国生(呆け老人をかかえる家族の会代表理事)

受賞:「介護家族の交流・研修と認知症の理解を地域に広めるための発信」

阿倍野介護家族の会・えがおの会

(大阪府大阪市阿倍野区)

代表 横尾禮子



④住友生命保険相互会社奨励賞

表彰:横山進一(住友生命保険相互会社取締役社長)

受賞:「共生型グループホームながさかの実践～年齢や障害を越えて、誰もが地域で暮らし続けるために～」

社会福祉法人白石陽光園(宮城県白石市)

八島浩



奨励賞の活動報告は p.19 以下で紹介しています

⑤特別賞表彰

表彰:長谷川和夫(「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン 2005」実行委員長)

受賞:「SPSD(認知症模擬演技者)による支援プログラムづくり」

特定非営利活動法人アビリティクラブたすけあい(東京都世田谷区)

香丸真理子



受賞:「発信『忘れても、しあわせ』の思い」

認知症本人・小菅マサ子&介護家族・小菅もと子&地域の人たち(愛知県豊明市)

小菅もと子



受賞:「認知症こそマイケアプラン『あたまの整理箱』『マイライフプランの玉手箱』の作成

全国マイケアプラン・ネットワーク(東京都府中市)

島村八重子



特別賞の活動報告は p.28 以下で紹介しています